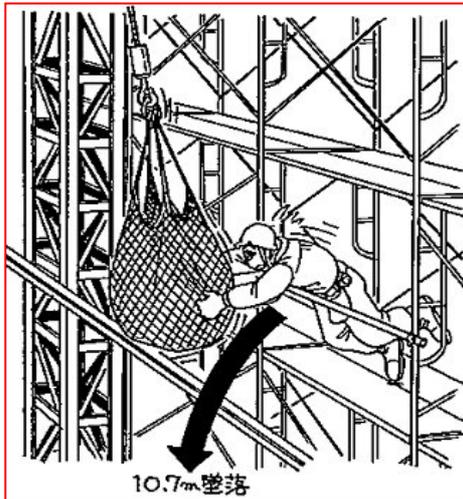


－ 荷の吊り上げには介錯ロープを使用すること －

- ・ 荷に引きずられて墜落、転倒するなどの危険から身を守るためにも吊り荷を直接つかまず、“介錯ロープ”の使用を行なってください。



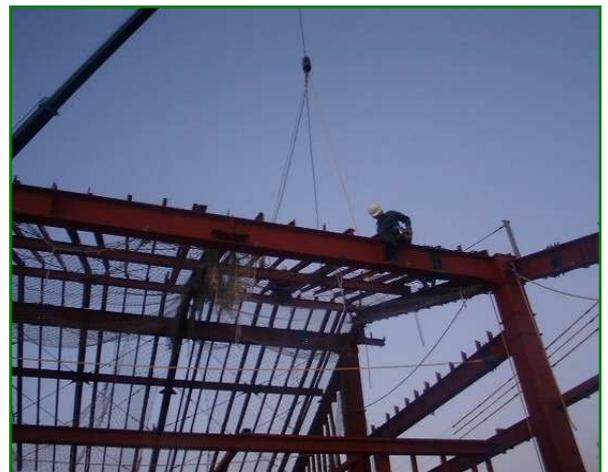
私たちは、荷に引きずられて墜落することなど普通にはあり得ないと思っています。

しかし現実には荷を掴んだまま引きずられて ← 足場上から墜落するという災害事例もあり同様の作業において防止策を講じる必要があることは当社も例外ではありません。

介錯ロープなぜ必要？

吊り荷を直接を手で掴んでいる場合、風等で荷が振られたときに、とっさに手を離せずそのまま引きずられる恐れがあります。

この理由は、誰も引きずられるという経験がない上に荷が振れたとき急に強い力で引かれるために手を放すタイミングを逃してしまうためです。



介錯ロープを使用する吊り荷

- ・長尺物(鉄筋材、鉄骨梁材、単管類)
- ・ワイヤーモック



← 一点吊りの場合吊り荷に触れることは禁止されています
鉄板吊りも専用フックを用いて介錯ロープの使用を行なって下さい

新発田建設の安全ルール

§. 現場で吊り上げる資材、仮設材は長尺物や重量のあるものばかりです、吊り上げ時に風にあおられ吊り荷が回転した場合に、その回転を制御するために介錯ロープを使用して下さい。

荷取りステージ上で吊り荷の取り込みを行なう場合も、直接荷をつかまず介錯ロープで吊り荷を誘導する方法を守ってください。